

地域にはばたく市民パワー！

ところざわ倶楽部「広場」

所沢市民大学修了者の会 広報紙

2013 年 11 月号 (第 66 号)

発行責任者 薄井 文子



面亀（本社：所沢市）の「飾り熊手」 長岡慶一 撮影

ところざわ倶楽部定期総会のご案内**－ 多数のご参加と活発な議事を！ －**

ところざわ倶楽部

総務部長 森下 尚洋

今年の天候は、過去に経験したことのない豪雨や台風、竜巻など自然の力の恐ろしさには驚くばかりです。幸いなことに所沢はこれらの天災を免れています。

さて、ところざわ倶楽部は、この 10 月で第 6 期が終了し、第 7 期目に入ります。会員数は 256 名、サークルは 17 を数え、それぞれ活発に活動しております。

第 6 期の事業を振り返ってみますと、新しい事業も試みました。文化祭での作品展示、連続した公開古典講座、映画上映会、各サークルの交流を深めるためのバス旅行と、いずれの事業にも予想以上のご参加をいただき大成功でした。

また、薄井会長と理事が 17 サークルすべてを訪問し、サークルの皆さんの意見、要望などを直接お聞きするとともに交流を図りました。理事会とサークルとの連携を強め、サークル活動を一層サポートしていくためにも有意義な訪問でした。

そこで、今期の活動を総括し、来期の事業計画を審

議していただくため、定期総会を次のとおり開催します。

日 時：平成 25 年 11 月 21 日(木) 13 時 ～ 16 時
(12 時 30 分受付開始)

場 所：新所沢公民館ホール
(新所沢駅西口から徒歩約 10 分)

資 料：当日配布

その他：13 時からサークル活動報告

「地球環境に学ぶ」「地域の自然」「北欧の会」

ところざわ倶楽部のさらなる発展のため、積極的に総会へご出席いただき、ところざわ倶楽部に対する会員皆様の率直なご意見、ご要望等をお聞かせくださいますようお願いいたします。

すでに、総会案内を別途、郵送にて差し上げておりますが、出欠席の返事のない方、至急ご返信くださいますようお願いいたします。

倶楽部サークル交流会

吉田の「龍勢祭り見学会」レポート

事業部長 志村 喜八



10月13日、晴天に恵まれ、暑さにもめげず、16サークル51名の参加で開催されました。「吉田の龍勢祭り」は伝統の祭りだけに、11万人の人出があったそうです。私たちのバスは30分近く遅れましたが、枚数も確保してあるため、

すぐに座ることができました。龍勢はやぐらを組んだ場所から打ち上げられ、色とりどりの煙火が上空を染め、これは、やはり現地で見なければ体感できない事のように思われました。

龍勢の発祥は戦国時代の緊急連絡用の狼煙が起源とされ、地元、棕神社の例大祭に神事として、27の流派



が創意工夫した龍勢を口上と共に打ち上げられます。

15分間隔で打ち上げられる龍勢を見ながら、皆さん、各サークルの人たちと、飲食、歓談して楽しい時間を過ごすことが出来ました。倶楽部のバス旅行、見学会は数年ぶりでしたが、サークル間の交流が少なかつただけに、今回のような行事はこれからも大事なことで

と思いました。

帰路、バスが小手指駅に到着したのは夕方6時頃でしたが、皆さんのご協力により無事に終えることができました。今回の行事計画については、「地域の祭り研究会」の井上理事にご尽力いただきました。ところざわ倶楽部事業部として、心より感謝申し上げます。

平成 25 年 10 月理事会報告

総務部長 森下 尚洋

10月理事会は15日に開催された。

1 会長挨拶・事案

- (1) 「吉田龍勢祭り」バス旅行無事終了のお礼。
- (2) 第7期理事候補者、分担提示。意見のある方は申し出るよう要請。

2 総務部案件

- (1) 総会のサークル活動報告「地球環境に学ぶ」「地域の自然」「北欧の会」の順で各15分以内で行う。
- (2) 会計より9月まで支出集計説明
- (3) 事業は、倶楽部主催かサークル主催かを明確する。利益の出たとき判断基準となる
- (4) 10月21日、20期生の説明会に対する協力要請
- (5) 総会提出資料「総務部報告」を了承
- (6) 9月理事会で「会員資格」の会則変更を検討したが、第3期の総会で明確になっていることから、今期は変更せず、今後の検討課題とする。細則の変更

を検討する。次の点を確認。

- ① 名称は「ところざわ倶楽部(市民大学修了者の会)」
- ② 会員以外のサークル加入についてはサークルの判断に任せるが、理事会に報告する。
- ③ 会員資格は「所沢市民大学を受講した者」とし、受講期間は問わない。

3 事業部案件

(1) バス旅行の報告・総括

第7期事業計画は、理事全員で検討する方式を要請

- (2) 1月行事：1月30日、所沢ロイヤル病院院長大久保氏の講演を予定
- (3) 仲山理事から、今後の事業について提案があり、来期の検討課題とする。

4 広報部案件

- (1) 広場10月号内容紹介
- (2) 広場11月号企画説明

20期生に対する
サークル説明会の実施について

平成25年10月21日午前10時より、生涯学習推進センターで、第20期市民大学閉講式が行われ、式終了後、市民大学修了者が運営する三つの団体、「ところざわ倶楽部」「さんさん会」「市民大学OB会」による、それぞれの団体への加入を勧めるための説明会が開催されました。

3団体のトップを切って当倶楽部の薄井会長が説明に当たりました。会長は、20期生のグループワーク発表会の印象を交えながら、サークル結成と当倶楽部への加入のお願いに熱弁をふるいました。

また、203号室に当倶楽部のサークル活動を紹介するブースが設けられ、ブースに用意された5枚のパネルには、各サークルがカラフルなPR用ポスターなどを掲示し、修了生の来場を待ちました。

修了生は記念撮影終了後、多くの方が来場してくれました。質問も多く、サークル会員の熱心な説明、勧誘もあり、その結果、会場で20名の入会申し込みがありました。入会者の中には、4つのサークルに入会申込をした方もおりました。

説明会に参加されたサークルの皆さん、朝早くから会場設営、掲示、説明とご協力ありがとうございました。お疲れ様でした。

(森下 記)

【市民大学は今】

グループワーク発表会を終えて



挨拶する藤本市長

10月8日と10月15日の両日中央公民館にて市民大学20期受講生によるグループワーク発表会が開催された。今年は各講座の指導講師の他に、10月8日には教育長、10月15日には藤本所沢市長と村上所沢市議会議長に出席をいただき、それぞれ挨拶をいただいた。発表された七つの講座の内五つの講座が所沢に関連したグループワークであった。その意味では藤本市長の挨拶にあった市民大学の学びを「継ぐ」、「絆」の観点から今後の所沢のために生かして欲しいとの期待に沿う内容であったと思う。発表内容については各講師から下記のような極めて高い評価をいただいた。

- ① TPP交渉が進む中で、地域の農業の活性化が重要になってくる。現場に行き問題点をよく理解し提言している。

第20期所沢市民大学企画委員 稲村洋二

- ② 放射線については、学会での発表に値する発表であった。見えないものを見える形にして自ら調べて正しく理解している。
 - ③ グループワークの取り組み方として、テーマの設定とその結論を、根拠を明確化した上で示している。
 - ④ 情報はインターネットで簡単にとることが出来るが、フィールドワークで自分がどう感じたかが大切で問題点の指摘が適切であった。
- 所沢市民大学の現状については、つぎのような評価をいただいた。
- ① 学習の質の高さを目指していることが感じられた。
 - ② 市民大学がよい形で根付いてきている。
 - ③ 市民大学は社会的活力として、生き生きとした生涯の入口となる。
 - ④ 今後は自己研鑽の場から社会参加の場へ。
- これらを21期につなぎ、さらなる高みを目指していただきたいと思います。

20期生グループワークの成果発表を聞いて

— レベルの高い内容に、興味を持って拝聴 —

「公園を楽しむ会」(第16期) 田中建夫

私が聴講した後半の3グループともその努力が大いに示された内容であり、発表も3グループ3様でそれぞれの特徴が伺えました。

限られた発表時間のため、メモを取る余裕もほとんど無く、説明に使ったパワーポイントの資料を希望者に配布して欲しいところです。

「放射線の科学」は、ファクターごとに線量データを採取して緻密な分析と評価を行い、研究者なみの成果発表でした。欲を言えば、他分野での利用状況や、放射線医学総合研究所で学んだ内容の一端も紹介して欲しかったと思いました。

「地方自治」からは、市の深刻な将来像を示され愕然としました。一方、社会参加を希望する人が70%近くいるとの説明には意外な感じを受けました。一般的に、地域コミュニティの必要性は総論としては叫ばれるものの、積極的にこれを担おうとする人材は非常に少ないのが実態であり、それが課題でもあるからです。

社会貢献を早めに引き出す退職者への支援(導入教育)や情報提供の仕組み作りは良い提案と思いました。



「所沢の自然と農業」(第16期) 後藤律子

「地方自治」の話は、ややもすると敬遠されがちだが、テーマ設定が「さらなる元気な所沢を創るために ~元気高齢者の社会参加を探ろう~」と身近なことだったため、興味を持って聞かせていただいた。

所沢市の22年後は1.5人の高齢者を現役1人で支えなければならない状況になるという。

市の財務状況、人口構成および高齢者福祉対策等の具体的数字をあげて現実の厳しさを示しながら、迫りくる高齢社会とどう向き合っていけば良いのかという課題に対して、元気高齢者は積極的に社会参加をすべきであるとまとめていた。その理由として、社会参加によって高齢者自身が生きがいを持つことができ、健康寿命も延びる等の効果が期待できる上に、介護や医療費の抑制も期待できそうとのことである。

地域デビューの取り組みをしている他市の事例もあげ、具体的で分かり易くまとめたかったが、半面、社会参加ができない病弱の高齢者はどうすればよいのか、という課題についても考えたいところである。

「脳の科学」は、認知症の進行状況、アルツハイマー病の薬と治療法、さらに市の介護サービス利用方法の紹介まで、懇切丁寧にまとめられており非常に参考になった。



サークル活動レポート

《地域の自然》

お話と楽しいサツマイモの収穫

加藤 司則

10月12日（土）晴れ、5月半ばに植付けして、約140日、ようやく収穫の日を迎えました。サツマイモ畑は「地域の自然」の活動場所の一つ、早稲田大学所沢キャンパスB地区内にあり、約80㎡の猫の額ほどの面積ですが、今年で3年目になります。

今年は日照りと水不足で最初に植えた苗がかなり枯れ、新しく植え替えたり、近くの湧水をやかき集めての水遣り、雑草とり、蔓返し等、猛暑の中の作業でした。しかし、茎が伸び、葉っぱがいっぱいに大きく成長してくるにつれ、次第に大きなサツマイモを想像し期待も膨らみました。

収穫イベントには一般市民25名、会員9名が参加（合計34名）。10時に開会のあいさつ、続いて早稲田大学創造理工学部講師、大堀聰先生に



よる「里山の循環型とサツマイモ」と題したお話をいただき、その後、B地区の活動場所の調査地へ移動。常緑樹伐採、下刈り、落葉掃き後の堆肥場、カブトムシ幼虫のこと等、先生が説明しながら案内。サツマイモ堀りは11時40分頃から始まりました。芋ほり、計量、袋づめまで皆さんの協力で本当にスムーズに出来ました。でっかいイモに歓声が、そして、小さい、少ない本数にため息が。しかし楽しんでいただき、公平

に分けたイモを喜んでお持ち帰りいただけたことと思います（?）

お話、見学、芋ほりのささやかな体験でも、“なぜサツマイモ作り”なのか、少しでもご理解いただけたならばそれが一番の収穫だろうと思いました。

サークル活動レポート

《懐かしの映画・鑑賞会》

映画「ALWAYS三丁目の夕日」を鑑賞して

二上 拓夫

この映画の舞台となったのは戦後13年たった昭和33年の東京であり、その2年前には「もはや戦後ではない!」という言葉が流行しました。当時11～12歳の少年だった私も、まさにこの映画の中の子供たちと同時代であり、当時を思い出して大変楽しめました。

戦後復興のシンボリック「東京タワー」の出来上がるまでの流れもドラマの重要な要素です。

映画の冒頭、ラジオの音声が聴こえて来ます。それがTVの登場シーンとなる。近所の人達がこぞってTVを購入した家に集まり、相撲やプロレス観戦に一喜一憂する。まさに私も、その家族が食事中であっても、その横で一緒に観せてもらいました。それは購入した家庭もそれが自慢でもあったのでしょうね。

それと冷蔵庫。当初氷で冷やす冷蔵庫から電気冷蔵庫へ移っていく。わが家はサラリーマン家庭で、当時は冷蔵庫もない家でした。食べる分しか買い置きがなく、また、庭の井戸が冷蔵庫の代わりでした。

それと都電の街中を走る姿は懐かしいなあ！私たち

が都電を意識した最後の子供ではないでしょうか？都内を縦横無尽に走っていた時代、あのガタゴトうるさい音が映画から思い出されて来ました。道路の中央に一段高くなった安全地帯、そこが都電の停留所です。道路を横切り停留所へ渡るとき（歩道などない!）怖いと感じなかったのは何故でしょう!?

まさに日本中が敗戦から立直るために一生懸命が



ばっていた時代でしたね。

この年齢になり、あの時代を私も生きて来たんだと懐かしくも頼もしく思われた映画でした。

『やはり、映画はいいですね!』

『続編も大いに期待!!』です。

《 エッセイ 》

“思い出語り” これは優れもの！

岡本 詔一郎

私の現在の目標は、「思い出語りの町ところざわ」と言われるような所沢を目指して、「ありとあらゆることをしたい！」です。その出発点として、ところざわ倶楽部の皆さんに、“思い出語り”の良さを理解していただき、その推進者になって欲しい！との思いから筆をとっています。

“思い出語り”は「人と人をつなぐ掛け橋」です。

聴かせてもらってありがとう

聴いてもらってありがとう（実はこれが本質）

私の思い出語りとの出会いは、1年前の高齢者大学で聴いた“思い出語り”の講義。講師の的野先生の話が上手だったこともあり聴き惚れ、思い出語りの会場でのデモにも参加し、印象に残っていました。

ところが、高齢者大学修了後、自分に合うボランティア活動を探していたところ、たまたま的野先生が主宰する「NPO法人所沢市思い出語りの会」に出会ったのです。

入会後まもなくの頃、この1月に小手指公民館のボランティアサークル「みちる」で女房とのマンドリンとオカリナの演奏が終了後、会長さんに“思い出語り”をやらせて欲しいと話したところ、是非、お願いしますと頼まれ、この3月に実現しました。



その例を紹介します。まず、40名ほどの参加者に2人1組になっていただき、予め決めていたテーマ「子供のころ最も印象に残っていること」につ

いて“思い出語り”をしていただいた。1人が5分間一方的に話し、相手は頷く（そうなの！とか、そう）だけ、時間がきたら笛の合図で交代。双方の5分間の話が終わったら、お互いにまだ聴き足りないことを5分間話してもらい、前後の導入と感想等を含めても30分で終了。

1回目としては大好評！？みなさんに楽しく会話をさせていただき、良かったと好評でした。“思い出語り”は、その場だけでなく、帰られてから、ご家族やお孫さんとの話にきっと生かされ、会話が弾むこと請け合いです。

ところざわ倶楽部の会員のみなさん、的野先生の“思い出語り”の活動に是非ご参加下さい。

薄井会長、部長さん、理事の皆さん、宜しくお願いします。

こんな事あんな事 ②

月のウサギはどこへいったのか？

仲山 富夫

◆ 宇宙探査機ボイジャー1号が太陽の影響圏を脱し、史上初めて星間空間を旅する人工物となった。打ち上げ以来36年である。木星や土星を観測し、木星の衛星イオでは、地球外初の火山活動も発見した。ボイジャーは今、地球から光速でも17時間以上というかなたを飛んでいる。燃料や電力の関係で次第に機能が縮小するが、それまでにどんな発見をもたらすか期待は尽きない。科学の進歩は驚異的なのだ。

◆ アポロ11号の宇宙飛行士、ニール・アームストロングが、1969年7月20日、月の表面を歩いた史上初の人間となった。

未だ月面に残る着陸船に、印字した金属板が取り付けられている。この銘板にはリチャード・ニクソン大統領の署名の、「我等惑星地球より来れり、全人類の平和を希求してここに来れり」と刻まれている。

◆ 「名月やすすきかざして童達」 村上鬼城

陰暦8月15日の夜、仲秋の名月の夜に酒宴を催し、詩歌を詠む習わしや、月見団子・芋・豆・栗などを盛

り、ススキや秋の草花を飾って月を祀ってきた私達の歴史風物は残っていくのだろうか。縁側にお供えしたススキ、団子は月明かりに照らされて美しかった。都会へ出て家庭を持った私達は、月見団子も芋も栗も供えたことは一度もない。人類の月着陸とともに、餅つきウサギやかぐや姫の物語が語られることが無くなってしまった。

◆ 月の餅つきウサギは何処へ行ったのだろうか？

餅をついていたウサギの家族は人間さまの侵略で、驚いて逃げ隠れてしまったのか？ 美しかぐや姫と別世界へ行かれたのか。私達はメルヘンを失ってしまったのだろうか。



月を愛でながら、「全生物の安らかなれ」、こんな事を思うのである。

長老衆として生きる

放射線

私の専門は、「放射線医学物理学」です。

「放射線に当たると癌になる。」は正しいでしょうか？ 正確には、「癌になるとは限らない。」です。わけは明快です。大地・空気・食物から、また胸の検査などで、人は全て放射線を受けますが、癌になるとは限りません。

では、放射線で癌にならないのでしょうか？ 正確には、「大量の放射線が当たると癌になることがある。」です。理解するには、知識が必要です。

放射能と放射線は違いますが、ご存知ですか？ 確率とか、誤差の知識も必要です。車の例えで考えましょう。ブレーキとアクセル、ハンドルの三つを知らないと、こんな具合です。「ブレーキを踏むから、スピードがでて、事故を起こした。」「アクセルを回すと右へ曲がる。」

放射線についても正しく知らないと、この例え話のようになってしまいます。マスコミで時々見かけます。

さて、「あなたの体に、放射能があります。」「あなたから放射線が出ています。」という文章、正誤はどうでしょう。どちらも正です。

放射線について知ることは、現代に生きる上で欠かせません。市民大学では、放射能、放射線、放射線量、放射性物質の四つの正確な意味を理解して頂きました。

デジタルとアナログ

“御用学者”は、原発事故以後よく使われる言葉です。例えば「放射線の弁護をするやつは、御用学者だ。」という風に。学者は、御用学者とそれに以外に二分されます。決め方は不明ですが、レッテルを張られると、ネット社会で言葉だけが一人歩きするようです。

私はこれをデジタル化と呼びます。コンピュータでは、全ての情報を、ゼロかイチのデジタルで表します。途中の「0.6」や「0.04より小さめ」などはアナログで、デジタルではそれぞれイチとゼロです。最近の風潮は、判断がデジタル化され、アナログが無いようです。悪となれば一切の弁明は聞かないデジタル化社会に思えます。

諺に「泥棒にも三分の理」とあります。犯罪者にも言い分はあり、それはそれで理屈になっている、とい



北里大学大学院客員教授 丸山 浩一

うようなことです。私たちの社会は、昔から善悪を単純に決めるのではなく、アナログで調和を探ってきたようです。例えば、「三方一両損」という話があります。

放射線は善悪ではありません。地球上どこにも放射線があります。従って、胎児も含めて全ての人が、日々放射線を浴びています（被ばくといいます）。問題なのは、その量です。人に与える影響の程度は、放射線量で測りますが、それが大

事です。放射線を正しく怖がり、正しく使うには、「被ばくしたくない」（イチかゼロ）ではなく、「どの程度多いか」をアナログで考える必要があります。

リスクとメリット

運転するしないにかかわらず、車に乗らない方はいません。毎年四千人以上が亡くなり、数十万人が負傷しています。どう判断しているのでしょうか。

事故に合うこと（リスク）と便利に行ける（メリット）ことを考えて、天秤にかけています。これは、リスクは絶対駄目（ゼロ）、メリットだけは良い（イチ）というデジタルではなく、アナログ思考といえます。

病院では、乳癌検診のマンモグラフィなど、放射線を使う検査があります。癌の治療には、重粒子線など最新の放射線治療もあります。ご自身でリスクとメリットを判断して、健康を維持して頂きたいものです。

長老衆

その昔、60歳を過ぎると文字通り老人で、経験のある思慮深い人に見えました。現代において、私たちは老い長ける大衆、「長老衆」です。私は年寄りらしく、重厚で、思慮深く、粘り強く生きたいと思います。デジタルでなくアナログで考えて、学びながらしぶとく生きて参りましょう。

丸山浩一先生プロフィール

- ・北里大学大学院 医療系研究科 客員教授
- ・市民大学20期で「放射線の科学」を講義
- ・本年より「ところざわ倶楽部」特別会員
- ・所沢市内在住

サークル活動計画

興味のある活動に参加してみませんか？

	葵の会（池田新八郎 2940-0711） 11月14日(木) 中央公民館6号 13:30～16:00 「古典講座古事記」第9回「英雄・日本武尊②」 11月20日(水) 国立能楽堂 能観劇 狂言/仏師 能/盛久
アジア研究会（小椋雄二 2921-7739） 11月20日(水) 定例会 中央公民館 13:30～16:30 8,9 学習室 DVD 韓国映画「高地戦（1953年）朝鮮戦争 東部戦線」を鑑賞＋総会 12月11日(水) 定例会 中央公民館 詳細後報	楽悠クラブ（甲田和巳 事前連絡は不要） 11月18日(月) 歌劇「ナブッコ」(ヴェルディ) DVD 鑑賞 12月17日(火) ①楽悠クラブ総会 ②ベートーベン交響曲 第9 鑑賞入門と DVD 鑑賞(サテン・ラル指揮ベルリニフィル) いずれも、(場)中央公民館#8・9 (時)13:30～17:00
公園を楽しむ会（渡部正俊 2921-3014） 11月28日(木)：「玉川上水散策」ふれあい下水道館、 平櫛田中彫刻美術館、東京たてもの園等 集合：所沢駅9時40分 12月19日(木)：反省会（来年度計画）と懇親会	地域の自然（多胡國男 2993-6143） 11月23日(土) 09:00～ 常緑樹伐採・整理 場所：さいたま緑の森博物館調査地 12月07日(土) 09:00～ 常緑樹伐採・整理 場所：早大B地区調査地
地域の自然を考える会（広沢正巳 2939-9181） 11月23日（祝）トトロ・クロスケの家収穫祭 11:00～14:00 11月26日(火) トトロ12号地管理作業 10:00～12:00 12月1日（日） 糀谷八幡湿地 収穫祭 9:30～ 12月15日(日) 早稲田大学 ヨシ刈り 9:30～13:00	地域の祭り研究会（加藤敏恭 2923-5263） 11月16日(土) 小鹿野歌舞伎見学会 参加希望少数の ため、中止となりました。 12月20日(金) 千葉研修会 定員に達したため、募集 はしていません。
地球環境に学ぶ（塚本二郎 2942-3117） 11月19日(火) 定例会 9:00～11:00 新所沢東公民館 10月28日 所沢市民放射線測定室での食品放射線量測 定結果について話し合う。ほか報告事項。 12月17日(火) 定例会 15:00～その後、忘年会予定。	所沢の自然と農業（清水仁一 2944-8835） 11月下旬 シダゴ山ハイキング（調整中） 11月28日(木) 関谷農園下草刈 12月15日(日) くぬぎ山の手入れ 12月下旬 新会員歓迎会&忘年会
野老澤の歴史を楽しむ会（戸田チ子 2995-0133） 12月1日(日) 所沢飛白の研究 12月7日(木) 渡辺隆喜先生を囲む座談会②	ドラマティック・カンパニー（八木雅子 2995-0148） 11月16日(土) 10:00～正午 12月7日(土)&21日(土) 10:00～正午（予定） ギリシア劇『トロイアの女たち』他を読み進めると共 に、実際に朗読を行います。会場：新所沢東公民館
懐かしの映画・鑑賞会（二上拓夫 080-1250-6151） 11月12日(火) 10:00～12:30 西新井町公民館 ■洋画「旅情」(s30年) キャサリン・ヘップバーン 11月26日(火) 10:00～12:30 西新井町公民館 ■「東京物語」(s28年) 笠智衆・東山千栄子・原節子	傍聴席（高垣輝雄 2926-7164） 11月18日(月) 定例会、14時～新所沢東公民館 石本亮三氏の講話：市の介護行政の現状と課題。 いま介護保険制度の変更が検討されています。制度 の流れや市が抱える課題などをうかがいます。
北欧の会（樋口俊夫 090-6483-7993） 11月16日(土) 13:20～ 第44回例会 場所：新所沢東公民館 今年度の活動報告内容及び来年度の計画を検討	民話の会（仲山富夫 2948-9255） 11月22日(金) 11:00～13:00 中央公民館7号室 民話を語る 12月20日(金) 13:00～ ところ荘予定 25年度活動振り返り、26年度計画作成、昼食会
歴史散策クラブ（大河原功 2943-2004） 11月9日(土) 吉良邸から築地浅野家上屋敷跡を歩く 集合：所沢駅2階改札内 9:00 11月22日(金) 全体会議、新所沢東公民館 9:30 12月10日(火) 総会&忘年会、新所沢東公民館 15:00	歴史を楽しむ野老会（居田治 2903-8400） 11月22日(金) バスで行く寄居・小川・嵐山史跡・ 郷土博物館めぐり 12月22日(日) 雑司ヶ谷界隈を歩く、忘年会（計画中）

【私の健康法】

加曾利 厚雄

ー 長続きする散歩の方法 (2) ー

前回は長続きする散歩の方法の基本は、「体を動かすことと同時に心(頭・考える)を動かすことである」と書きました。今回は、目的の持ち方、心(考える)の問題について話をします。

最近、私は民話の会に入って、所沢の民話について興味を持っています。その民話の中で、弘法の三つ井戸というものがありますが、どうしてもこの物語の意味が分からず、毎日家から三つ井戸まで歩きました。片道40分ほどかかります。「なぜ東川の隣に井戸を掘るのだろう、100mの間に三つも井戸を掘ったのだろう」といろいろ疑問に思う事がありました。このことから「東川がここを通る必然性があるのだろうか」ということもあり、東川の源流が何処にあるのかを調べるために三つ井戸から上流に歩き3日かけて三ヶ島の狭山湖寄りのところに辿りつきました。この結果、左右の土地の隆起の関係から、ここ以外に川の通り道はあり得ないとの結論を得ました。これらを調べるのに実質2週間足掛け2か月かかりました。考えながら歩くと勝手に足が目的の場所に行ってくれますし、疲れや嫌気は起きません。あっという間に目的地に着きます。弘法の三つ井戸の結論は別の機会にお話ししますが、去年は所沢の蔵造りに興味を持ち、同じように日参しました。目的を持って考えながら歩くと体は勝手に動いてくれるし、毎日歩きたくなります。雨の日も風の日も。



むさし野俳句会(二十五年十月) 作品抄



(烏瓜)

千枚の稲田見おろす御歌の碑
実南天トスカナにてたわわなり
稲架襖連ね明るき峡の里
新宮の二千余年の初穂かな
豆絞り締めて出番の秋まつり
大花野雲の形に名をつけて
一列に鶏頭並ぶ畑境
行く秋の釣人に日の移ろひぬ
稲八俵田に桴浮く久米田圃
画布めき稲田を動くコンバイン

鈴木 征子
中嶋 弘子
中村 直子
橋本 佑子
平栗 彰子
荒幡千鶴子
飯泉 陽子
井出 昇
海老澤愛之助
粕谷 のぼる

丹念に棚田の落穂拾ひけり
稲穂波かき分け行くや新幹線
簪の稲穂の三粒お守りに
復田に懸ける想ひや稲刈りぬ
満月や腕に眠る五子子の顔
ひらがなの誕生メール今朝の秋
地境の橋のたもとや烏瓜
霧の朝何を見むとて屋根の猫
生垣をからめとりたり烏瓜

河瀬 俊彦
小林 貞夫
小林 典子
佐藤 八郎
白神 恵子
高梨 千代
高橋三加子
高光 泉
利根川啓一

《編集後記》

▼ 皆さんは11月になると、どんなことを思い浮かべますか？ 紅葉、晩秋、七五三、酉の市・・・

私が子供の頃過ごした北国では、この時期は大人達が厳しい冬に備えて漬物を漬けたり、燃料作りをしたり忙しく働いていました。

▼ 表紙の写真ですが、これは酉の市でおなじみの「飾り熊手」です。この飾り熊手を作っている会社が所沢にあり、全国一のシェアを誇る“面亀”さんです。酉の市に行けば面亀さん製作の飾り熊手に会えるかもしれませんね。今年の酉の市は三の市まであるそうです。

▼ さて、毎月行われている『広場』編集会議では、難しい記事もあれば楽しい話題もある変化に富んだ内容になるよう、活発な討議を行っています。

編集委員同士が遠慮なく何でも言い合える関係は、

これからの紙面づくりに良い影響を与えていくことだろうと思います。

▼ 広報紙『広場』をつくるにあたって、何を大切にしてきたのかを考えてみますと、倶楽部と各サークルの情報交換の場は勿論のこと、一人でも多くの読者に「読んで参考になった」「面白かった」と思ってもらえること、そして次号はどんな内容なのか楽しみにしてもらえよう紙面づくりを目指してきたことです。そのためには読者の生の声を聞くことが不可欠です。

▼ 読後の感想を編集部に寄せていただけると、『広場』はなお一層充実した内容になっていけるのではないのでしょうか。皆様のご意見をお待ちしています。

(後藤 記)